

事務事業名	7269 アーカイブズセンター運営費														
担当組織	教育委員会					生涯学習課					担当	郷土博物館担当			
組織コード	R2	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	02	01	03	01	01	記入日	令和 2年 6月30日	
	R1	62	10	00		R1	01	02	01	03	01	01			

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち									○ 対象		
分野	04	生涯学習									● 対象外		
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実											
事業期間	平成13年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	公文書館法 文化財保護法 公文書等の管理に関する法律 戸田市アーカイブズ・センター規程					関連計画 施政方針							
事業区分	○ 法定受託事務      ○ 自治事務のうち義務的なもの      ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	市民、研究者及び行政職員等の利用者												
事業目的	古文書、古写真をはじめとする歴史史料、歴史公文書（行政文書）を整理・保存することにより戸田市の歴史を文書から裏付ける。市史編さんに必要な史資料を適正に守る。												
事業内容	アーカイブズ・センター窓口では、整理の終わっている古文書類の閲覧に供する。移管された歴史公文書（行政文書）の整理保管、戸田市が発行する刊行物（行政資料）の整理・保存を行う。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託                      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ( )												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額（千円）	令和2年度 予算額（千円）	令和3年度 計画額（千円）	令和4年度 計画額（千円）	令和5年度 計画額（千円）	
	事業費		6,255	8,425	7,456	8,425	8,425	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	36	36	36	36	
	一般財源		6,255	8,389	7,420	8,389	8,389	
	人件費		1,027.2	2,396.8	2,396.8	2,396.8	2,396.8	
	投入 人員	常勤職員	0.15人	0.35人	0.35人	0.35人	0.35人	
		非常勤職員	0.56人	1.96人	1.96人	1.96人	1.96人	
事業費+人件費		7,282	10,822	9,853	10,822	10,822		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	整理した史料の数	点	整理した史料の点数	6,000	6,000	6,000	
					15,857	32,978	—	
	活動②						—	
	成果①	史料の貸出・利用数	点	館外貸出又は館内利用した史料の点数	0	50	50	
					33	0	—	
成果②						—		
目標達成 状況 の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> アーカイブズ・センターの利用は、設備改修工事に備えて休館していたため、アーカイブズ・センターの利用・利用者登録はなかった。 史料の整理については、スペースが限られた仮事務所ではあったが、行政文書の整理が進んだ。							

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>戸田市の歴史史料を整理・保存していくことで、市民や地域の研究者に情報提供することができる。過去を知ることがこれからの市民の暮らしや仕事に役立てることにつながる。</p>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>史料の整理・保存には、人的な投入が必要である。後世に史料を伝えていくため、良好な保存環境を継続的に保たなければならない。防虫剤の定期的な交換、中性紙保存箱による整理と保存にかかる消耗品が必要となるが、可能な限り経費節減に努めている。</p>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>歴史的公文書の整理は、行政の責任において市の歴史を跡付ける重要な作業である。良好な保存状態を保つための装備、目録作成など直接指揮監督できる態勢での作業が適正である。</p>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>利用者への貸出し・目録公開をしている史料閲覧は無償としている。なお、史料整理をし、適正な方法での保存は、将来にわたり行政体の責任においてなされるものであり、説明責任の根拠となるものである。</p>

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	大量の古文書、行政文書（歴史的公文書）を休館中、安全に保管できるよう外部保存する史料も含めて、精力的に史料整理に当たった。
見直しの効果	外部保存史料、館内留置資料を効率よく整理・配架できた。

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>保存年限の満了した廃棄公文書を文書保存箱単位で毎年度収集している。毎年廃棄される予定の公文書の拾い上げをすることで、行政組織としての動きを確実に残すよう努めている。収集史料は膨大な量であるが、長期保存の可能な形態を整備し、良好な状態で保存していく。今後も現状の予算・人員規模で着実に史料保存とこれまで収集した古文書史料や地図資料などを閲覧に供する事業を継続する。</p>
今後の取組方針	<p>今後も地道に整理・保存を継続していくことが、「戸田市」の歴史を跡付けることとなり、それが行政の責務である。よって、戸田市の歴史を確実に跡付けられる史料収集・保存の知識のある「アーキビスト」の働きができる職員を育成する。</p> <p>既に満杯状態の史料を保存する適正な収蔵庫の建設を含めて、非現用となった行政文書の収蔵場所を検討する。</p> <p>なお、歴史的公文書については所管部署の変更を庶務課と調整しているところである。</p>

事務事業名	21272 図書館管理運営費													
担当組織	教育委員会					生涯学習課					担当	図書館担当		
組織コード	R2	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	10	04	06	02	01	記入日	令和 2年 6月30日
	R1	62	10	00		R1	01	10	04	06	02	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補	
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち										● 対象		
分野	04	生涯学習										○ 対象外		
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実												
事業期間	昭和58年度～令和2年度													
根拠法令通達等	図書館法 戸田市図書館条例及び同条例施行規則					関連計画 施政方針	戸田市教育振興計画 戸田市生涯学習推進計画							
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの													
対象	図書館利用者													
事業目的	利用者の利便性向上と安全に資するため、指定管理者による適切な施設の維持管理と各種行事や講座の実施等総合的な図書館運営を行う。													
事業内容	図書館施設の維持管理及び図書館運営に係る各種業務													
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO ) <input type="checkbox"/> 協働・協力 (      )													

2. 実施結果

		令和元年度 執行額 (千円)	令和2年度 予算額 (千円)	令和3年度 計画額 (千円)	令和4年度 計画額 (千円)	令和5年度 計画額 (千円)	
事業の 予算・実績	事業内容	図書館管理運営費(設備改修工事費増)	図書館管理運営費(指定管理料増)	図書館管理運営費	図書館管理運営費	図書館管理運営費	
	事業費	877,474	321,095	324,119	321,095	321,095	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	478,000	0	0	0	0
		その他	150,120	40	74	74	74
		一般財源	249,354	321,055	324,045	321,021	321,021
	人件費	21,776.64	11,299.2	13,696	13,696	13,696	
	投入人員	常勤職員	3.18人	1.65人	2人	2人	2人
		非常勤職員	2.49人	0.65人	1人	1人	1人
事業費+人件費		899,251	332,394	337,815	334,791	334,791	

	指標名	単位	説明・算定式	H30目標	R1目標	R2目標	
				H30実績	R1実績	R2実績	
目標達成状況	活動①	自動貸出機設置件数	台	自動貸出機を設置した件数	5	3	0
	活動②	図書電算システム委託契約件数	件	図書電算システムを委託契約した件数	5	3	-
	成果①	自動貸出機利用率	%	自動貸出機の利用率	1	1	1
	成果②	図書電算システムにおける障害発生件数	件	貸出業務の停止を伴う程度の障害	1	1	-
				45	45	45	
				49.1	46.9	-	
				0	0	0	
				0	0	-	

目標達成状況の分析	<p>A : 活動・成果ともに達成した。</p> <p>&lt;判断理由&gt;              図書館システムのマニュアルを職員及び委託会社に徹底することにより、貸出業務の停止を伴う程度の障害の発生を防ぐことができた。自動貸出機は、本館3台、上戸田分館2台、合計5台ある。令和元年度は、設備改修工事によ本館休館のため、上戸田分館のみの設置となったが、令和2年度からは中央図書館も開館するので今後も貸出機利用のPRに努めたい。</p>					
-----------	--	--	--	--	--	--

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>図書館本館については、予定通り、大規模設備改修工事が終了し、令和2年度から指定管理者への運営となる。設備改修改修のほか、読み聞かせコーナーの個室化、地下書庫資料の除菌・清掃、各種備品の刷新等を行い、令和2年度から施設利用者の安全も図られ、快適な読書空間を提供できる。</p>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>改修工事にあたって、入札により業者選定が実施され、他の事業についても金額に応じた複数の見積徴取等を行うなど適切に実施した。また、カウンター業務を委託することで、人件費等を最低限に抑え、適正化を図っている。</p>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>図書館本館は設備改修工事を実施。他の業務委託も、最低限のコストで適切な管理を実施。また、本館仮事務所や3分室、2配本所のカウンター業務についても、業務委託を実施。</p>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>本事業は、一部の市民だけでなくすべての市民に係る内容であるので、事業の効果は広く市民に還元されるものである。</p>

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	<p>大規模な設備改修工事とは別に、以下の業務を行った。①1階の読み聞かせコーナーの修繕を行い、個室化に改修した。②既存のソファは生地を張替え再利用した。③工事中に地下書庫資料を上層階に移動し、大々的に除菌・清掃を行った。④児童用の閲覧テーブルや椅子等を刷新した。</p> <p>また、小中学校の児童・生徒約2,500人や未就学児の保護者、市内関連施設へのアンケート調査結果等を参考として、第3次戸田市子どもの読書活動推進計画を策定した。</p>
見直しの効果	<p>①読み聞かせコーナーは親子が絵本や紙芝居等を周囲に遠慮することなく声を出して読める環境に変わった。②ソファは生地以外の本体は問題ないため、新規購入に比べ低価格で行うことができた。③地下書庫の除菌等は長期休館期間内に、時期を逸することなく実施でき、衛生的な書庫管理を行えるようになった。④児童用のテーブル等は長年使用していたため、全てを刷新でき、安心して利用いただけるようになった。また、読書計画は乳幼児、小学生、中学・高校生の各段階の推進を掲げたため、推進者が活動を進めやすくなった。</p>

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<p>○ 1現状で継続      ○ 2拡大して継続      ○ 3縮小して継続      ● 4他事業と統合      ○ 5休止</p> <p>○ 6その他見直し      ○ 令和3年度で終了      ○ 令和2年度で終了      ○ 令和元年度で終了</p> <p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>令和元年度で設備改修工事は終了したが、利用頻度の高い公共施設であることから、今後も計画的な修繕計画を行っていく。令和2年度から、指定管理者制度を導入する。</p> <p>また、図書館・博物館協議会は、令和2年4月から図書館運営協議会と博物館協議会に分離したことから、図書館・博物館協議会費は令和元年度で終了したため、当該事業の図書館運営協議会部分を図書館運営管理費に統合した。</p>
今後の取組方針	<p>指定管理者制度の導入により、図書館窓口等業務の更なる市民サービス向上に資するよう、事業者の提案を取り入れながら密に調整し図書館運営を行っていく。</p>

事務事業名	7575 資料管理事業													
担当組織	教育委員会					生涯学習課					担当	図書館担当		
組織コード	R2	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	10	04	06	02	02	記入日	令和 2年 6月30日
	R1	62	10	00		R1	01	10	04	06	02	02		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち									○ 対象		
分野	04	生涯学習									● 対象外		
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実											
事業期間	昭和58年度～令和2年度												
根拠法令通達等	図書館法 戸田市立図書館条例及び同条例施行規則					関連計画 施政方針	戸田市教育振興計画 戸田市生涯学習推進計画						
事業区分	○ 法定受託事務      ○ 自治事務のうち義務的なもの      ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	図書館利用者												
事業目的	図書館は、多くの書籍等の資料の中から価値があり有益だと思われるものを選択・収集し、提供する。また、それを良好に管理し、市民の読書活動に資することを目的とする。												
事業内容	各種資料を選定し、購入し（発注、受入れ）、書架に配置する。利用しやすいよう分類に従い整理整頓する。最新情報を提供する必要がある場合には、当該資料の新陳代謝を図る。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託                      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 (      )												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業費		24,792	27,524	22,896	27,524	27,524	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	24	24	24	24	
	一般財源		24,792	27,500	22,872	27,500	27,500	
	人件費		4,451.2	2,396.8	6,848	6,848	6,848	
	投入人員	常勤職員	0.65人	0.35人	1人	1人	1人	
		非常勤職員	1.3人	0.95人	1人	1人	1人	
事業費+人件費		29,243	29,921	29,744	34,372	34,372		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	購入図書の冊数	冊	購入図書の冊数		7,000	10,000	10,000
						7,368	10,178	—
	活動②	除籍図書の冊数	冊	除籍図書の冊数		25,000	1,000	25,000
						22,147	948	—
	成果①	市民1人当たり貸出冊数	冊	全貸出冊数÷人口		4.5	0.5	4.5
					3.7	3.1	—	
成果②							—	
							—	
目標達成状況の分析		B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 購入図書の冊数と市民1人当たり貸出冊数は、目標を達成した。除籍図書の冊数については、設備改修工事のため本館内に立ち入れないため、目標を下回った。						

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>市民ニーズを勘案し、様々な分野の学問・研究に役立つ良書を選定し、心豊かな読書生活に貢献した。なお、図書館本館については設備改修工事のため閉館していたが、予定通り良書を選定・購入し、一旦、上戸田分館に保管した。</p>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>資料購入については、全館の蔵書構成も考慮し、幅広い著作物から厳選購入を実施。市民一人当たりの貸し出し冊数も見ながら購入を決定しており、経費の精査は十分になされている。</p>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>図書購入から除籍までの一連の手法を確立しており、配架から書庫入れまでの作業は業務委託としている。</p>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>本事業は、一部の市民だけでなくすべての市民に係る内容であるので、事業の効果は広く市民に還元されるものである。</p>

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	<p>購入図書の選定については毎週1回行っているが、平成27年9月より指定管理者による運営となった上戸田分館については、指定管理者が1次選書し、本館職員が2次選書する。改修工事実施中の令和元年度中は、本館休館を考慮し、分館・分室については新刊書の選定に加え、傷んだ基本図書の買替え、蔵書が少ない分野についての補充等を行なった。</p>
見直しの効果	<p>戸田市全体での蔵書構成の調整を図り、様々な分野の図書を備える図書館に近づいた。</p>

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>業務委託している部分を含め図書購入から除籍までの業務は、円滑に行われた。令和2年4月の本館の再開及び指定管理の導入を見据えて遅滞なく業務実施を行った。</p>
今後の取組方針	<p>令和元年度中に設備改修の工事も終わり、令和2年度からは図書館全体（中央図書館及び分室、上戸田分館）で指定管理者制度を導入することになるが、各事業者と連絡を密にとり円滑に業務が実施できるよう努める。</p>



## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 協議会での委員からの意見を基に図書館サービスの改善を図ることができるため、図書館サービスの充実に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 委員報酬については、条例で定められた附属機関委員の額とし、開催回数も必要最低限で実施している。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 事業実績報告と今後の事業予定の事務局発表とともに、図書館運営に関する意見聴取や意見交換を行うことで本来の附属機関としての活用を図っている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 事業実績報告と今後の事業予定の事務局発表とともに、図書館運営に関する意見聴取や意見交換を行うことで本来の附属機関としての活用を図っている。

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	図書館本館設備改修工事に伴う休館についても説明し、図書館の将来像を考えるような会議内容とした。 また
見直しの効果	現状の課題の解決策や展望についての意見や令和2年度からの指定管理による運営についての意見・要望を聴くことができ、図書館の将来像を考える上で、参考とすることができた。

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input checked="" type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 図書館・郷土博物館協議会を令和元年度で終了する。
今後の取組方針	図書館・郷土博物館協議会を令和元年度で終了し、令和2年度から図書館運営協議会と郷土博物館協議会とする。

事務事業名	21269 郷土博物館運営費													
担当組織	教育委員会					生涯学習課					担当	郷土博物館担当		
組織コード	R2	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	10	04	07	02	01	記入日	令和 2年 6月30日
	R1	62	10	00		R1	01	10	04	07	02	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち									○ 対象		
分野	04	生涯学習									● 対象外		
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実											
事業期間	昭和59年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	博物館法及び博物館法施行規則 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準 文化財保護法 戸田市立郷土博物館条例及び同条例施行規則					関連計画 施政方針		戸田市教育振興計画 戸田市生涯学習推進計画					
事業区分	○ 法定受託事務      ○ 自治事務のうち義務的なもの      ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	博物館利用者												
事業目的	直営の博物館として、博物館の使命に基づき、収蔵資料を体系的に管理し保存し、博物館教育普及活動を充実させることにより、市民の文化活動の一翼を担う。												
事業内容	直営の郷土博物館として、教育施設である郷土博物館の使命を全うできるよう、環境を整える。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託                      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO ) <input type="checkbox"/> 協働・協力 (      )												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業費		13,730	20,179	12,628	20,179	20,179	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	24	24	24	24	
	一般財源		13,730	20,155	12,604	20,155	20,155	
	人件費		1,985.92	3,629.44	3,629.44	3,629.44	3,629.44	
	投入 人員	常勤職員	0.29人	0.53人	0.53人	0.53人	0.53人	
		非常勤職員	0.03人	0.59人	0.59人	0.59人	0.59人	
事業費+人件費		15,716	23,808	16,257	23,808	23,808		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①							
	活動②							-
	成果①							-
	成果②							-
目標達成 状況 の分析	- : 未設定 <判断理由> (※ 予算管理シート)							

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	(※ 予算管理シート)
見直しの効果	(※ 予算管理シート)

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input checked="" type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> (※ 予算管理シート) 図書館・博物館協議会は、令和2年4月から図書館運営協議会と博物館協議会に分離したことから、図書館・博物館協議会費は令和元年度で終了したため、当該事業の博物館協議会部分を郷土博物館運営管理費に統合した。
今後の取組方針	(※ 予算管理シート)

事務事業名	7578 郷土博物館資料収集・保存利用事業														
担当組織	教育委員会					生涯学習課					担当	郷土博物館担当			
組織コード	R2	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	10	04	07	02	02	記入日	令和 2年 6月 4日	
	R1	62	10	00		R1	01	10	04	07	02	02			

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち									○ 対象		
分野	04	生涯学習									● 対象外		
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実											
事業期間	昭和59年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	博物館法及び博物館法施行規則 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準 文化財保護法 戸田市立郷土博物館条例及び同条例施行規則					関連計画 施政方針	戸田市教育振興計画 戸田市生涯学習推進計画						
事業区分	○ 法定受託事務      ○ 自治事務のうち義務的なもの      ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	博物館利用者												
事業目的	博物館の基礎となる郷土資料を収集・保存し、市民生活の足跡を市民の共通の遺産として伝え残す。市民や学校、研究者等の求めに応じて閲覧、利用できるようにする。												
事業内容	戸田市に関わる自然・歴史・民俗・考古資料等を収集、整理、保存及び整備し、展示資料として公開、活用できるよう収蔵に努める。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託                      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO ) <input type="checkbox"/> 協働・協力 (      )												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業費		6,668	1,440	1,226	1,440	1,440	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	6,668	1,440	1,226	1,440	1,440	
	人件費		3,903.36	3,013.12	3,013.12	3,013.12	3,013.12	
	投入 人員	常勤職員	0.57人	0.44人	0.44人	0.44人	0.44人	
		非常勤職員	1.22人	0.5人	0.5人	0.5人	0.5人	
事業費+人件費		10,571	4,453	4,239	4,453	4,453		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	整理した資料の数	点	整理した資料の点数	1,000	1,000	1,000	
					14,429	7,203	-	
	成果①	資料の館外貸出数	件	館外へ資料を貸し出した 件数	5	7	10	
					31	23	-	
	成果②							
目標達成 状況 の分析	A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 資料収集については、そのほとんどが寄贈によるものであり、収蔵庫のスペースの関係から、既に収蔵されている資料については、寄贈を断る場合もある。しかし、資料整理については、寄贈資料とはイコールではない。館外貸出資料点数・館内利用には、博物館同士の資料貸出のほか、小学校などの授業で実物資料を子供たちに見せるといった利用がある。活動・成果ともに目標を達成した。							

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 資料を収集・保存していくことは、過去から現在に至る人間の営みを未来に伝えていくことである。また、小学校授業に活用できる資料の館外貸出をすることで、教育機関としてのニーズにこたえている。市民や研究者の学習活動にも貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 資料にとって大敵となる虫・カビの害から守るため、新規の寄贈資料は燻蒸処理をしたうえで収蔵している。日常的には良好な保存状態を保つための防虫対策に掛かる費用を最低限にとどめ、経費は適正といえる。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 業務委託を効果的に行っている。具体的には、短時間でできる二酸化炭素による小規模燻蒸は当館職員が、殺卵を目的とした木製民具類等の燻蒸は業務委託している。今回は、設備改修で外部保管していた資料を対象とした全館燻蒸を専門の業者へ委託した。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 本事業は、現在の市民のみならず、未来の戸田市民の財産として継承していくための事業であり、効果は広く還元されるのもである。

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	通常は、寄贈された資料は、洗浄後、年に1回燻蒸業者への持込燻蒸を実施し、収蔵庫への配架している。休館中につき、寄贈資料はクリーニング後、仮設収蔵庫へ収納している。普段遅れがちの収蔵品管理システムへの入力を積極的に進めることができた。
見直しの効果	休館中の業務は、収蔵品管理システムへの入力作業により、資料の情報量が増えた。

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 良好な保存状態を保つため、学芸員による収蔵環境を両行の保つための作業のほか、専門業者による燻蒸も継続していく必要がある。
今後の取組方針	収蔵庫の清掃や資料を定期的に目視することにより、良好な状態で資料保存に努めていく。また、防虫剤などの定期的な入れ替えを計画的に行っていく。満杯状態の収蔵庫、前室的な部屋については、物理的な問題であるため、今後も引き続き検討課題とする。

事務事業名	7669 展示及び教育普及事業													
担当組織	教育委員会					生涯学習課					担当	郷土博物館担当		
組織コード	R2	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	10	04	07	02	03	記入日	令和 2年 6月30日
	R1	62	10	00		R1	01	10	04	07	02	03		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち									● 対象  ○ 対象外		
分野	04	生涯学習											
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実											
事業期間	昭和59年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	博物館法 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準 文化財保護法 戸田市立郷土博物館条例及び同条例施行規則					関連計画 施政方針	戸田市教育振興計画 戸田市生涯学習推進計画						
事業区分	○ 法定受託事務      ○ 自治事務のうち義務的なもの      ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	博物館利用者												
事業目的	展示事業は、資料収集機能、資料整理保管機能及び調査研究機能の成果を活用又は公開することで、市民の文化的関心と教養を高めることを目的とする。また、教育普及機能の一環として、博学連携事業を促進するとともに、文化的な郷土の醸成を目指す。												
事業内容	展示事業については、年間3回の展覧会を企画し、郷土戸田を様々な角度から紹介する。展覧会に関連した催し物を企画し、展覧会の理解を深める。 教育普及事業については、子供、親子又は市民を対象とした講座を年間を通して企画する。学校教育との連携を図り、郷土を愛する心を育てる。												
実施主体	■ 市による単独直営      □ 委託      ( □ 3セク・財団      □ 企業      □ 市民・NPO)      □ 協働・協力 (      )												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業費		24,200	10,543	5,330	10,543	10,543	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		24,200	10,543	5,330	10,543	10,543	
	人件費		1,164.16	4,588.16	4,588.16	4,588.16	4,588.16	
	投入 人員	常勤職員	0.17人	0.67人	0.67人	0.67人	0.67人	
		非常勤職員	0.16人	1.8人	1.8人	1.8人	1.8人	
事業費+人件費		25,364	15,131	9,918	15,131	15,131		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	教育普及事業の開催回数	回	特別展等の関連講座も含めた講座等実施回数		0	0	5
	活動②	博学連携における収蔵資料活用	件	学校教育支援のための収蔵資料の貸出件数		0	5	8
	成果①	特別展示及び企画展示の入場者数	人	特別展示室への延べ入場者数		0	0	2,500
	成果②	教育普及事業への参加者数	人	特別展等の関連講座も含めた参加延べ人数		0	0	50
目標達成 状況 の分析	B: 活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 休館中の展示・教育普及事業は、特別展示室・講座室等の活動場所が無くては、実施できない。 博学連携事業は、小学校の学習支援が中心で、休館中の支援は、収蔵資料等の貸出となった。							

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	A	B	B	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>展示活動・講座等の教育普及事業は、休館中のため実施できなかった。しかし、小学校への資料を携帯しての出張事業などある程度の貢献はできた。</p> <p>設備改修により、利用者の安全性・快適性が改善され、常設展示室のリニューアルは計画どおり、順調に進めることができた。</p>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：経費の精査が十分になされている。
	B	B	A	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>展示活動・講座等の教育普及事業は、休館中のため実施できなかったが、活動の中心的存在となる非常勤の学芸員を減らしたため、リニューアル展示の仕様作成には苦慮したが、適正な水準を維持したと考える。また、入札による常設展示室リニューアルも計画どおり、経済的に遂行された。</p>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	A	B	B	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>休館中の非常勤の学芸員等の減員は、常設展示室のリニューアル展示遂行痛手であった。また、博学連携事業についても、小学校からの要望は、同時期に集中するため、対応が難しかった。収蔵資料の貸出については、効率よくできた。</p>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>本事業は、一部の市民のみでなく全ての市民に係る内容であるので、事業の効果は、広く市民に還元されるものである。未来の郷土を愛する戸田市民を育成している。</p>

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	<p>休館中は、博学連携事業の内、貸出可能な資料の貸出対応を行った。</p> <p>常設展示室のリニューアル展示は、収蔵庫でこれまで日の目を見なかった資料を中心に構成することとした。</p>
見直しの効果	<p>学校への出張授業は、人材等の関係から実施できなかったが、資料の貸出については、仮設収蔵庫に直接学校に貸出すこと、返却日を調整することで、少人数での対応を可能とした。</p> <p>常設展示室のリニューアル展示は、収蔵庫のスペースを広く必要とした資料を展示室で公開することで、若干のスペースを創出できたこと、郷土戸田の歴史を現代に近づけることができた。</p>

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1現状で継続 <input type="radio"/> 2拡大して継続 <input type="radio"/> 3縮小して継続 <input type="radio"/> 4他事業と統合 <input type="radio"/> 5休止 <input type="radio"/> 6その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス対策により、夏季と秋季の展示会は休止となった。しかし、展示活動は、博物館機能の中でも最も博物館らしい事業であるといえることから来年度に向けて予算は維持し、郷土戸田の掘り起こした情報を展示公開していく。</p> <p>教育普及事業として、小学校との連携は、できる限り対応していく。</p>
今後の取組方針	<p>令和2年度は、常設展示室のリニューアルオープンした展示をより多くの人に見ていただくため、広報活動を充実させていく。</p> <p>講座等の教育普及事業も博物館資料を活かした内容を検討し、博学連携事業は可能な限り実施する。一層の教育普及活動に努める。</p>

事務事業名	7567 自然環境調査研究・講座開催事業													
担当組織	教育委員会				生涯学習課				担当	彩湖自然学習センター担当				
組織コード	R2	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	10	04	08	01	01	記入日	令和 2年 6月30日
	R1	62	10	00		R1	01	10	04	08	01	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち									○ 対象		
分野	04	生涯学習									● 対象外		
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実											
事業期間	平成9年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	戸田市郷土博物館条例及び同条例施行規則				関連計画 施政方針		新行政改革大綱 行政改革推進計画						
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの												
対象	利用者												
事業目的	地域の動植物の分布や自然環境の様子を知ることによって、自然に対する興味を持つ人づくりを目的とする。												
事業内容	動植物調査及び自然環境の調査。調査資料や写真等に基づいて手引書、報告書、研究紀要等を作成する。地域の自然の様子を写真パネルなどで展示、各種講座の開催や生き物の配布を行う。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託                      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ( )												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業費		585	820	611	820	820	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	191	191	191	191	
		一般財源	585	629	420	629	629	
	人件費		1,848.96	2,054.4	2,054.4	2,054.4	2,054.4	
	投入 人員	常勤職員	0.27人	0.3人	0.3人	0.3人	0.3人	
		非常勤職員	0.77人	0.68人	0.68人	0.68人	0.68人	
事業費+人件費		2,434	2,874	2,665	2,874	2,874		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	自然観察会等講座の開催回数	回			30	33	26
	活動②	彩湖周辺の植物調査回数	回			30	27	—
	成果①	自然観察会等講座の参加者数	人	延べ人数		50	50	50
	成果②					53	60	—
目標達成 状況 の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。							
	<判断理由> 植物調査回数は目標を達成したが、自然観察会等講座の開催回数及び自然観察会等講座の参加者数は、台風19号の影響で彩湖・道満グリーンパークが冠水し、臨時休館となったこと、また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館としたため目標を達成することができなかった。							

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 参加者のアンケートの集計結果では、多くの方に満足してもらい、施策目標に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 非常勤職員によるサービスの提供で全体経費が削減されている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 専門に応じた非常勤職員を配置し、講座の充実に努めた。また、外部講師に専門家を招いたことで受講者から高い評価を得ることができた。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 実費相当の参加費を徴収した。

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	従来から人気のある講座の充実に努めるとともに、新規の講座を開催することで、新たな参加者確保に努めた。
見直しの効果	台風や新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった講座もあり、参加者数も目標に到達することができなかった。 講座参加者アンケートにおいては概ね好評であった。

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 一部講座で参加希望者が増え、キャンセル待ちや受付を断るケースが増加する傾向にある。市民からの需要の高い事業であることから、職員の稼働時間や講座の内容のや受付方法など改善を行い需要に応じていきたい。
今後の取組方針	講座についてアンケート調査による利用者の要望等を反映するとともに職員の資質の向上を図って、サービスを充実させる。

事務事業名	7542 施設運営・維持管理事業													
担当組織	教育委員会					生涯学習課					担当	彩湖自然学習センター担当		
組織コード	R2	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	10	04	08	01	02	記入日	令和 2年 6月30日
	R1	62	10	00		R1	01	10	04	08	01	02		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ		実施計画候補
基本目標	01 子どもの成長と生涯にわたる学びのまち	● 対象  ○ 対象外
分野	04 生涯学習	
施策	12 図書館・郷土博物館サービスの充実	
事業期間	平成9年度～令和2年度	
根拠法令 通達等	戸田市郷土博物館条例及び同条例施行規則	関連計画 施政方針
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの	
対象	利用者	
事業目的	安全で環境に配慮した施設運営を行い、安心して見学ができるようにする。また、展示室を改修することで館内展示を充実させ、入館者の増加を目指す。	
事業内容	施設・設備の修繕や警備、清掃等を行うことで、安全で快適なセンター運営を行う。ミニ彩湖等周囲の遊歩道等外回りの点検・整備も行う。	
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO ) <input type="checkbox"/> 協働・協力 (      )	

2. 実施結果

事業内容	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	執行額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)
施設運営、維持管理及び展示室の改修					
事業費	26,539	28,882	31,072	31,732	31,732
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他	0	77	70	70
	一般財源	26,539	28,805	31,002	31,662
人件費	8,217.6	8,286.08	8,286.08	8,286.08	8,286.08
投入人員	常勤職員	1.2人	1.21人	1.21人	1.21人
	非常勤職員	1.13人	1.12人	1.12人	1.12人
事業費+人件費	34,757	37,168	39,358	40,018	40,018

指標名	単位	説明・算定式	H30目標	R1目標	R2目標
			H30実績	R1実績	R2実績
活動① 開館日数	日		330	332	263
活動② 設備修理件数	件		330	294	-
成果① 来館者数	人	延べ人数	8	8	8
			5	5	-
成果②			21,000	23,000	21,000
			21,939	21,466	-
					-

目標達成状況の分析	<p>C : 活動・成果ともに達成できなかった。</p> <p>&lt;判断理由&gt; 台風19号により彩湖・道満グリーンパークが冠水してしまい、臨時休館になったことや新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館としたため、開館日数、来館者数は目標を達成できなかった。また、設備修理件数は目標に達しなかったが、修理する設備の優先順位付けを行い、適切な設備の改善を行った。</p>
-----------	--

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 市民満足度の高い施設である。アンケートにおいても、施設管理についておおむね好評を得ており、市民サービスを向上させた。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 職員が消耗品で直接修繕を行う等経費削減に努めた。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 市民満足度の高い施設であり、また、国の施設であることから市の直営とすることは妥当である。施設の基幹部分の修繕については、適宜国と協議を行った。一方、施設展示は20年以上経過し老朽化・陳腐化がすすんでおり、リニューアルを含め、計画的な改変を行う必要がある。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 施設の性質上、受益者負担は設けてないが、公益性の高いものなので適正である。

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	国との管理協定に基づき施設老朽化に伴う修繕を実施した。 国が管理している5階展示室のリニューアルを実施した。
見直しの効果	新たな展示物が設置され、荒川や彩湖について理解しやすい施設となった。

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input checked="" type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 施設の老朽化が進んでいるため、計画的な改修を行う必要がある。平成29年度に躯体を管理する国による大規模修繕が実施されたが、未だ施設内で老朽化が進んでいる部分がある。なお展示については、5階展示室が国によりリニューアルされた。令和元年度は入館者数増加を図るべく、愛称募集や新規事業を行ったが台風19号により道満グリーンパークが冠水し、臨時休館となってしまった。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月より臨時休館となったため来館者増にはならなかったが、今後、展示施設等の改善や動画配信機能等の拡充を検討し、予算要求を行っていく。
今後の取組方針	展示物も多数が傷んでいることから、抜本的な対策を検討する必要がある。 市の責任となっている維持管理について、特に屋外観察施設については、利用者の安全確保のため改善をする必要がある。また、引き続き展示室等の改修に係る予算要求を行っていく。

事務事業名	7619 彩湖自然学習センター博学連携事業													
担当組織	教育委員会					生涯学習課					担当	彩湖自然学習センター担当		
組織コード	R2	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	10	04	08	01	03	記入日	令和 2年 6月30日
	R1	62	10	00		R1	01	10	04	08	01	03		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち									○ 対象 ● 対象外		
分野	04	生涯学習											
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実											
事業期間	平成9年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	戸田市郷土博物館条例及び同条例施行規則					関連計画 施政方針							
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの												
対象	戸田市の小学校児童												
事業目的	学校側がセンターの資料や観察フィールドを活用と自然観察の知識を有する学芸員による解説を受けることで自然体験学習を有効に実施し、子供たちが地域の自然に触れ親しむ。												
事業内容	博学連携事業の推進のため彩湖自然学習センター活用検討委員会を開催する。サイエンスサポートプログラムによる出前授業や教材提供の実施												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO ) <input type="checkbox"/> 協働・協力 (      )												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
	事業内容		博学連携・学社融合					
事業費			338	538	404	538	538	
財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0	0	
	県支出金		0	0	0	0	0	
	起債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		338	538	404	538	538	
人件費			4,451.2	3,766.4	3,766.4	3,766.4	3,766.4	
投入 人員	常勤職員		0.65人	0.55人	0.55人	0.55人	0.55人	
	非常勤職員		2.42人	1人	1人	1人	1人	
事業費+人件費			4,789	4,304	4,170	4,304	4,304	
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	自然体験学習実施学校数	校	延べ学校数		12	12	12
		出前授業実施学校数	校	延べ学校数		12	12	12
	成果①	自然体験学習参加者数	人	延べ人数		1,300	1,300	1,300
		出前授業参加者	人	延べ人数		1,000	1,000	1,000
	成果②	自然体験学習参加者	人	延べ人数		1,378	1,394	—
出前授業参加者		人	延べ人数		1,622	1,765	—	
目標達成 状況 の分析	A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 活動、成果共に目標を達成できた。サイエンスサポート及びセンター授業も年々定着してきており、参加した児童も日常において、自然体験に興味を持ち自主的に来館し勉強している。							

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 都市化の進展で自然環境が失われていくなか、センターでの自然観察体験を通じた自然と人との関わりの学習を専門職員と行うことは、子供の自然の教育に資するものである。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 学校からの要請に対して職員（常勤・非常勤）の勤務を調整して全て実施した。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 直営は妥当である。学校での出張授業、3年生センター授業を通じて教員との交流や意見交換を行うことで事業の改善を図っている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 本授業は、貴重な自然体験や科学体験を児童の供することを目的としており、受益者負担はなじまない。

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	指導主事が兼務となり、学校側の窓口として博学連携事業に関わるようになった。
見直しの効果	学校との連携が前年度に比べて円滑に行われるようになった。

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 軌道に乗った博学連携事業であることから今後も継続実施する。
今後の取組方針	現場教員で構成する彩湖自然学習センター活用検討委員会で新たなセンター活用方法や教育支援を検討するとともに、センター授業等の説明会やホームページなど情報提供ツールの活用を通じて教員に対するセンターの学習利用への理解を求めていく。